

国際エネルギー機関（IEA）が英国の温室効果ガス削減策を高く評価

国際エネルギー機関（以下、IEA）の6月6日の報告書では、気候変動に対処するための英国政府の努力を称賛し、エネルギー安全保障のため自由貿易の重要な役割を果たしていると、高く評価している。

IEAは、英国のエネルギー政策に関する最新の詳細なレビューを発表し、クリーンエネルギー技術の脱炭素化と革新を促進することを目的とした改革を歓迎すると、レビューで英国政府による国内外での気候変動対策の実績が具体的に強調されている。



この報告書は、気候変動に対処するための英国政府の努力を称賛し、エネルギー安全保障のための自由貿易の重要な役割を強調している。（ロンドンのタワーブリッジ/IEA 報告書から）

レビューによると背景には、2017年の英国のエネルギー関連CO2排出量は1888年以来最低レベルに達し、英国では電力市場改革（EMR）に続き、再生可能エネルギーの投資が大幅に行われている。2030年までに、英国の再生可能エネルギーのシェアが発電量の50%を超えると予測されている。今後、急速な変化の中で、風力発電と太陽光発電の割合が高い電力システムへの相互接続、貯蔵、電力セキュリティを維持するため、需要の反応を見ながら柔軟に対応する必要があると、報告している。

英国のビジネス・エネルギー・産業戦略省のエネルギー・クリーン成長担当長官クリス・スキッドモア氏は、次のように語っている。

「私たちは、再生可能エネルギーへ過去最高レベルの投資によって、エネルギーシステムが劇的に脱炭素化に向かっていることを誇りに思うと同時に、供給の安定性は貫かねばな

らない。しかし、私たちは満足しているわけではなく、地球温暖化への限りない貢献のために、ゼロエミッションを法律で制定する最初の主要国になるだろう。」と結んでいる。

なおレビューでは、英国の電力部門以外にも、改善の余地があると考えられる。それらは、気候変動に関するパリ協定に沿った温室効果ガス排出量の削減には、政府のクリーン成長戦略の最大の焦点である輸送部門および熱部門へのクリーンエネルギー投資の更なる拡大が必要になると、述べられている。

さらに、これらの分野での行動は、高い電力コストを相殺するのに助けることができる財政政策とエネルギー効率によって刺激された技術革新とEV化を含む解決策の幅広いミックスを必要とするだろう。電力卸売市場および小売市場における規制の合理化は、より効果的で競争の激しい市場を確保するために、重要になる。

また、英国の新しい石油・ガス当局が率いる最大の経済回復戦略は、北海の石油とガスの生産が減少傾向にあるが、生産をあるレベルで安定化させることである。しかしこの減少により、英国は輸入への依存度を高めざるを得ないだろう。その減少は、新設予定の原子力発電の遅れや、既存の石炭や原子力発電所の廃棄や廃炉が相まって、英国にとって当面電力と天然ガスの輸入が引き続き必要であることを意味していると、述べられている。

また英国のEU離脱関連の報告において、オープンで効率的なエネルギー貿易関係が、英国の既存のエネルギーシステムへの安定供給を維持ために、依然として不可欠であることも強調されている。

世界的なエネルギーガバナンス、気候変動対策、および技術革新を強化するための英国政府による国際的な共同プロジェクトの様子も取り上げられている。これらは、2018年にIEAと英国がエジンバラで開催した炭素回収、利用および貯蔵に関する国際会議の場によって示された。事務局長および議長としての英国はMission Innovationリーダーシップを発揮し、また、IEAのクリーンエネルギー移行プログラムの創設メンバーである英国は、主要新興国のエネルギー移行を支援する役割を果たしている。

IEAのBiroi博士は「英国は、エネルギー技術協力においてIEAと、その加盟国にとって強力なパートナーであり、英国政府の努力は、効果的な脱炭素化の枠組みを設計しようと努める多くの国々にとって、最適なモデルでもあり、またインスピレーションでもある。」と述べている。

IEAとして随分英国を称賛していると思われるが、筆者が見ている英国は地味ではあるが国策として、あるプロジェクトを進める場合、そのプロジェクトの本質を見極め、目標と時期を明確にし、地の利の活用と自国で出来ない技術やシステムは、躊躇なく世界NO.1のもを導入し、そのために必要な資金の一部は、国際入札で調達し、目標達成に向けて粛々と遂行し、場合によっては、英国国内だけでなくグローバルの視点で捉え、特に後進国へのシステムづくりのノウハウの支援は、惜しみなく行われている様で、忸怩やしがらみもなく、それがごく当たり前に行われている様に、思えてならない。(了)